



ジョイフル

VOL.71
2024.9.25 発行



豊明第1営業所 乗務員 小木曾 匠

2022年に南星キャリアックス株式会社の一員となった小木曾匠さん。以来、乗務員として、これまでどのような経験を積んできたのでしょうか。マルチプレイヤーとして、営業所の仲間から信頼を寄せられ、「今後はほかの営業所からも頼りにされる存在になれば」と目標を語る小木曾さんの心がけに迫ります。

入社までの経緯を教えてください。

以前は広島県の運送会社で、トラックの乗務員として働いていました。次第に新しいチャレンジをしたいと考えようになり、転職を決断。工場内の電線や配線などを手がける会社で、営業職に就きました。その会社は、小ささまざまな機械を取り扱っています。自分で図面を描いてお客様にご提案するなど、幅広い経験を積むことができました。仕事にやりがいを感じてようになりました。

日々失敗はありますが、「喜ばれることに喜びを」という社是のとおり、お客様から「いつもありがとう」と声をかけていただく、うれしい気持ちになります。私にとっては当たり前ですが、感謝していただく行動でも、感謝していただく「お役に立てたのだ」と実感できるもの。特に、スポット案件で初めてお会いしたお客様から、「今日は助かりました」と言われると、「喜んでいただけでよかった」と感じます。



いたものの、工場に出入りしていると日々たくさんトラックを目にします。乗務員の仕事を振り返っているうちに、「もう一度トラックに乗りたい」という思いが自分の内から湧き上がってくるようになりました。そんな中、南星キャリアックスと出会う機会があり、もう一度乗務員に挑戦してみようと意を決し、門を叩きました。

現在のようになんか分野で活躍できるようにするために、心がけてきたことを教えてください。

私がメインで担当したのは自動車部品の配送ですが、南星キャリアックスだけでなく、この業界自体が人手不足のため、さまざまなスポット案件にも携わりました。これまで産業廃棄物や食品、鉄道部品など、多種多様な品物を運んだものです。仕事で注力した点は、主に2つあります。1つ目は、周囲と

最後に、今後の目標をお聞かせください。

お客様はもちろん、ほかの営業所からも頼りにされる人材になりたいと考えています。今後も、どのような案件もしっかり遂行できるスキルを身につけていくつもりです。

また、自分の経験や実績を後輩社員に伝えていくのも目標の1つ。後輩社員の成長こそが会社の財産となり、末永い発展につながると思っています。

「困っている人を助けられる、スーパーマンのような人材になりたい」と意気込みを語った小木曾さん。これからも、南星キャリアックスをさらに飛躍させるための一翼を担っていくに違いありません。



のコミュニケーションを密に取ること。特にスポット案件は慣れない荷物を扱い、知らない場所へ行かなければなりません。それぞれの品物や納品先ごとに注意すべきポイントやルールが異なるため、お客様としっかりコミュニケーションを図って把握しておく必要があります。また、同じ案件を担当した同僚に、経験談を聞くこともあります。こうして少しでも情報を収集し、しっかりと納品できるように心がけました。

2つ目は、「自分は会社の顔だ」という意識を持つこと。乗務員はほかの誰よりもお客様との接点があります。会社の看板を背負っているという気持ちでミス防止に努めるのももちろん、お客様のご要望を実現できるように尽力しました。例えば、「南星キャリアックスにはお願いしていないが、大阪府方面にも出荷している」と聞いた際には、「一度見積もりを提出させてもらえませんか」と打診します。あ

教訓になったような、ヒヤリとした出来事は過去にありましたか。

大型自動車の免許を取得したばかりのころ、シャフトを運ぶ定期便を担当していました。ある日、右折をしたときに異音がありました。しかし、納品先へと急いでいた私はその場で確認しなかつたのです。到着後に荷物を見ると、シャフトが1本倒れているのを発見しました。

後日、大岩課長と一緒にドライブレコーダーの映像で状況を確認しました。自分としてはスピードを落としていたつもりでしたが、右折時に23キロメートルも出ていたのです。大岩課長からは、「10キロメートル以下でもいくらだよ」とアドバイスをもらい、「反省するしかありませんでした。以降は、重量物